

鳥帽子会会報

2022年秋号 Vol.73



研究奨励賞受賞者



FU-OMSA受賞者



学生医学教育貢献者賞
受賞者

福岡大学医学部同窓会

目 次

・ 会長挨拶	小 玉 正 太	3
・ 総会報告（総会風景）	今 泉 聡	4
・ 研究奨励賞		
令和 4 年度 研究奨励賞選考報告	坂 田 俊 文	6
令和 4 年度 研究奨励賞受賞者名簿		7
・ 令和 4 年度 受賞論文抄録		
impact of Controlling a Nutritional Status Score on Wound Healing in Patients with Chronic Limb-Threatening Ischemia after Endovascular Treatment (論文)	三 根 かおり	7
Leg Length Change After Curved Periacetabular Osteotomy and Its Impact on the Clinical Outcomes (論文)	鈴 木 正 弘	8
CCN2-induced lymphangiogenesis is mediated by the integrin α v β 5-ERK pathway and regulated by DUSP6 (論文)	橋 口 志 保	8
Trophic and Immunomodulatory Effects of Adipose Tissue Derived Stem Cells in a Preclinical Murine Model of Endometriosis (論文)	平 川 豊 文	9
A high serum cortisol/DHEA-S ratio is a risk factor for sarcopenia in elderly diabetic patients (論文)	柳 田 育 美	9
・ 総会報告（受賞者）		10
・ FU-OMSA 賞状・タイバー授与		11
・ 学生医学教育貢献者賞の授与		14
・ 教授就任挨拶		
教授就任のご挨拶	西 尾 淳	15
教授就任のご挨拶	深 見 達 弥	16
・ 教授退任挨拶		
福岡大学退官に際して	岩 本 英 明	17
・ 令和 5 年度研究奨励賞募集要項／在外研修援助金募集要項		18
・ 令和 3 年度 評議員会		19
・ 教室紹介		
生理学講座	藤 田 孝 之	21
腎臓・膠原病内科学講座	升 谷 耕 介	22
腎泌尿器外科講座	羽 賀 宣 博	23
再生・移植医学講座	小 玉 正 太	24
・ 学生会員支援報告		
令和 4 年度 M4CBT 激励会の報告	北 島 研	25
・ 計報		
西園昌久先生を偲んで	高 良 由貴夫	27
・ 医学部同窓会諸表		28
・ 医局長・医長名簿		30
・ 教育職員人事／編集後記		31

同窓会ホームページ共通 ID、パスワード

ID : eboshikai
パスワード : fukudai1 (数字)

パニックマニュアル専用パスワード

panic



ホームページ用二次元
バーコード

会長挨拶

No 1

鳥帽子会 会長 小 玉 正 太 (13 回生福岡大学医学部再生・移植医学教授 医学部長)



2019年12月医学部長に就任してまもなく、コロナ禍に見舞われることとなった。まず、2020年3月はじめに福岡市内で主催した学会は、コロナ第1波初動期の学会となりリモート対応が追いつかず、やむなく中止とした。しかしながら、2022年3月再び同じ学会を主催した時には充分な対応でハイブリッド開催が可能であった。

一方学内では、2020年4月から5月(第1波)にかけては一旦対面授業、実習を一律に中止したが、厳しい行動制限のもとで再開し、以後は一律かつ全面的に対面授業・実習を止めたことはなかった。文科省の対応指針などを遵守して授業の出欠には対応したが、欠席者の修学を担保するために行った録画配信授業は、年間を通じて視聴可能であった為に、医学部生に手厚い予習・復習効果を生み出した。ただし、これらの医学部対応の施策は全学で一律の対応ではなく、学長が医学部長に共学ガバナンス権限を移行した結果行うことが可能であった。2022年8月第7波の現在、学内での緩和策は取りつつもコロナの終焉は予想しにくく、今後も臨機応変で世相に適った対応が必要であろう。

同窓会活動においても学内外での豊富な経験を活かし、早い時期から理事会はハイブリット化で対応がなされた。そのため中止となった2020年総会は2021年と合同総会として行われた。同窓会で企画された学生対応行事は、今まで懇親会を主体として行なわれてきたものが大半を占め、このコロナ禍では懇親会の実現には至らなかった。ただし、学生対応の行事も臨機応変で世相に適った対応を行うことで、形を変えて可能となり継続されている。

今年度は同窓会事業を見直し、規約を整備して同窓会システムの完全なICT化に臨むこととした。寄附事業は寄附行為を促すモチベーションを先ず育むべきで、卒後教育や病診地域連携の強化を、学部病院一環の事業として同窓会もサポートすることとした。これからも新病院等の施設建設に寄附を募る意義を会員の皆様には理解して頂きたいと痛感している。また支部活動サポートは定例の支部会開催サポートだけでなく、各支部会へ常任理事会員が参加し、支部長はじめ若手会員との意見交換を行い、誌面をかりて支部活動の積極的な報告をしたいと思う。学内外の会員がより発展していくため、緊密な関係を形成していきたいと考える。

最後に卒業生で大学院進学者のピークに近い世代は、奇しくも総会担当幹事学年とひと回り若い世代になっている。総会でひと回り違う2世代が企画運営に当たることは、今後研究奨励賞の受賞対象者になるにしても、今後の若手教職員候補になるにしても、総会担当幹事学年の一回り古い我々世代が注目する大変良い機会である。当事者であるこれら若い世代は、是非同窓会事業に目を向けて貰いたい。それは若い世代が次世代を担うという、世代を超えた多くの卒業生の期待に、若い世代が応えることである。

総会報告

第41回烏帽子会総会報告

第41回烏帽子会総会理事 今 泉 聡 (25回生)

この度、第41回烏帽子会総会を開催させていただくことができましたので、ご報告させていただきます。

今回の総会では昨年と同様、総会に引き続き研究奨励賞及び、第4学年の成績優秀者トップ10名に贈られるFU-OMSAの表彰を行いました。また今年は、学生医学教育貢献者の表彰を行っております。これは、補習や実習指導などで教育職員の方々が多く時間を学生教育に費やしている現状を鑑み、感謝の気持ちを込めてお贈りすることになったものです。今年は、臨床教育部門では高松泰先生、基礎教育部門では大野芳典先生、事務部門では近藤孝憲さんが受賞されました。

引き続き福岡大学同窓会有信会理事長 石村國芳先生より、オール福大として烏帽子会と心をつにし、魅力ある福大を目指す旨のお話がありました。朔学長からは「福岡大学に福岡の文化を創る」とのテーマのもと、日本一のキャンパス構想、大学全入時代に向けて産学官連携を進め、学生のために時代を拓くことの必要性が強調されました。また、福岡大学のブランド力向上、グローバルに進化する学生・教職員がいる輝く私立大学を目指すことが宣言されました。小玉医学部長からは、GeneralityとSubspecialtyの調和のとれた医師及び学際的視野を持ったPhysician Scientistの養成を行っていくこと、これから続く医師たちへは、

険しい道ではあるが打算ではなく、自分の思いを大事にしながら希望する学問を研鑽してほしいとお話がありました。岩崎総病院長からは、近未来の医療を担うための福岡大学病院の取り組みがご紹介されました。その中で、日本の長期展望に対する医療として医師の働き方改革、オンライン診療への取り組み、ICT/クラウドの利用が、新しい総合医療情報システムとしてAI診断を利用した画像システムが、福岡大学のブランド強化として、ロボット手術や肺移植、膵臓移植などが紹介されました。

25回生の田中謙太郎先生からは、コロナ禍のメンタルヘルスとして「孤立しない、孤立させない」ことの重要性が強調されました。私からは、院内・院外の先生が一丸となったチームとしての対応と倫理が、福岡大学の発展につながる事を発表させて頂きました。

今回のすべてのプログラムで共通しておりますのは、同窓会が一丸となって福岡大学を良くしていくとの思いだったのではないかと考えております。今回の総会が滞りなく開催できましたのも、同窓会の先生方の温かいご支援のおかげと考えております。この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



総会風景



有信会 石村國芳理事長ご挨拶



有信会 石村國芳理事長と会長



有信会 川畑懿子名誉理事長と会長



朔啓二郎学長ご挨拶



小玉正太医学部長ご挨拶



岩崎昭憲病院長ご挨拶



田中謙太郎先生 ご講演



今泉聡先生 ご講演



26 回生へ幹事引き継ぎ



26 回生 ご挨拶



25 回生

研究奨励賞

令和4年度研究奨励賞選考報告

選考委員長 坂田 俊文（10回生）

本年度は15件の応募があり、各審査員の採点合計などをふまえ最終的に5名が選出されました。基礎研究2編、臨床研究3編、インパクトファクターは3.2から5.4の範囲でした。この中で最優秀賞を獲得した論文は臨床研究で、インパクトファクターは最高の5.4でした。全体として良い選考結果になったと考えています。

一方、選出はいつもながら容易ではありませんでした。論文の価値を評価する際、インパクトファクターは大切な評価指標の1つです。しかしこの尺度は個々の論文そのものを評価する目的で生まれたものではありません。また、マイナー診療科では一流誌でもインパクトファクターが相対的に低いなどの問題があります。つまりインパクトファクターだけでは論文の価値を結論づける事ができません。この他にも、

審査員の専門性によって、ある種のバイアスが生じることがあります。また、同じ専門領域から類似した構成の論文が複数提出されていると、それらの順位付けに迷うことがあります。そのような条件下で、22名の審査員は各論文の内容を吟味し、意見をすり合わせながら選定作業を進めました。

選定作業をしながらいつも感じるのは、研究奨励賞申請書に記載されている論文要旨の大切さです。この論文要旨は、論文冒頭のサマリーとは異なり、他の専門領域の読者にも理解できるように記されていることが望まれます。特に研究の意義についてはできるだけ魅力的に紹介していただけるとなお良いです。適切な論文要旨であれば、論文そのものの価値がより明確になり、審査員の専門性によるバイアスを軽減することができます。



● 令和4年度 研究奨励賞受賞者名簿 ●

福岡大学医学部 心臓・血管内科学 福大助教 三 根 かおり (準会員)	Impact of Controlling a Nutritional Status Score on Wound Healing in Patients with Chronic Limb-Threatening Ischemia after Endovascular Treatment (論文)
福岡大学医学部 整形外科 福大大学院生 鈴木 正 弘 (正会員 36 回生)	Leg Length Change After Curved Periacetabular Osteotomy and Its Impact on the Clinical Outcomes (論文)
福岡大学医学部 歯科口腔外科学 / 再生・移植医学 福大助手 橋 口 志 保 (準会員)	CCN2-induced lymphangiogenesis is mediated by the integrin $\alpha\beta$ 5-ERK pathway and regulated by DUSP6 (論文)
福岡大学病院 産婦人科 福大助教 平 川 豊 文 (36 回生)	Trophic and immunomodulatory effects of adipose tissue derived stem cells in a preclinical murine model of endometriosis (論文)
福岡大学医学部 内分泌・糖尿病内科学 柳 田 育 美 (34 回生)	A High Serum Cortisol/DHEA-S Ratio Is a Risk Factor for Sarcopenia in Elderly Diabetic Patients (論文)

令和4年度 受賞論文抄録

impact of Controlling a Nutritional Status Score on Wound Healing in Patients with Chronic Limb-Threatening Ischemia after Endovascular Treatment (論文)

福岡大学医学部 心臓・血管内科学 三 根 かおり (準会員)



Chronic limb-threatening ischemia (以下 CLTI)は、末梢動脈疾患の最も進行した病態です。CLTI 患者の大切断回避のためには、集学的アプローチが必要であり本研究は、患者特性および栄養状態を CONUT スコアで算出し、

臨床結果に及ぼす影響を評価しました。

死亡、大切断、12 ヶ月後の創傷治癒率と入院時の CONUT スコアとの関連を評価するために、単一施設の後向き非ランダム化研究を実施しました。2014 年 1 月～2019 年 5 月に福岡大学病院にて血管内治療を受けた連続した CLTI 患者 (平均年齢 73.2 ± 10.4 歳、男性 84 名)を登録し、2 群 (CONUT スコア高値群と低

値群)に分類しました。CONUT 高値群は CONUT 低値群に比べ、透析導入率が高く (66.7% vs 33.9% 、 $p < 0.001$)、臨床虚弱スケール (5.9 ± 1.4 vs 4.9 ± 1.9 、 $p = 0.005$)であることが示されました。切断なしの生存率は、CONUT 低値群と高値群でそれぞれ 89.5% と 69.8% でした。12 ヶ月後の創傷治癒率は、CONUT 低値群、高値群でそれぞれ 98.0% 、 78.3% でした。多変量解析により、CONUT スコアが高いほど創傷治癒遅延の独立した予測因子であることが示されました。(OR: 11.2; 95% CI: 1.29-97.5; $p = 0.028$)。研究結果から CONUT スコアを用いた栄養状態の評価は創傷治癒の予測に有用であり、早期の栄養介入は患者の転帰を改善する可能性が示唆されました。

Leg Length Change After Curved Periacetabular Osteotomy and Its Impact on the Clinical Outcomes (論文)

福岡大学医学部 整形外科 鈴木 正 弘 (36 回生)



【背景】

Curved periacetabular osteotomy (CPO) は寛骨臼形成不全に対する寛骨臼回転骨切り術の 1 つである。CPO の合併症についていくつかの報告があるが、脚長変化についての報告はない。

本研究の目的は、CPO における術前後の脚長変化を調査し、臨床成績に与える影響について検討することである。

【対象と方法】

2016 年 3 月から 2019 年 4 月に施行した CPO 67 例 70 股 (男性 5 例 5 股、女性 62 例 65 股) を対象とした。術前、術後の脚長変化は X 線股関節正面像を用いて測定し、臨床成績は Harris hip score (HHS) および Medical Outcomes Survey 36-item Short Form

Health Survey (SF-36) に基づき評価した。SF-36 は、physical component score (PCS)、mental component score (MCS)、role component score (RCS) を使用した。

【結果】

CPO における脚長変化は $-0.08 \pm 3.10\text{mm}$ であった。HHS の平均値は 73.5 点から 91.9 点へと有意に改善した ($P < 0.001$)。SF-36 の PCS と RCS は、それぞれ 35.1 点から 46.1 点 ($P < 0.001$)、39.5 点から 47.0 点 ($P < 0.001$) へと有意に改善した。また、MCS は術前後で有意な差は認められなかった。70 股関節のうち、35 股が脚延長をきたし、35 股が脚短縮をきたした。脚延長群と脚短縮群では、術前後の HHS と SF-36 に有意差は認められなかった。

【結論】

CPO における脚長変化の平均値は $-0.08 \pm 3.10\text{mm}$ であり、この脚長変化は術後臨床成績に影響を与えない。

CCN2-induced lymphangiogenesis is mediated by the integrin $\alpha v \beta 5$ -ERK pathway and regulated by DUSP6 (論文)

福岡大学医学部 歯科口腔外科学講座 橋 口 志 保 (準会員)



Cellular communication network factor 2 (CCN2) は複数の既知受容体や生理活性因子と相互作用し、多様な生物学的効果を示す。CCN2 の血管新生作用に関しては様々な報告があるが、リンパ管新生における CCN2 の役割とそのシグナル経路を含めた分子生物学的制御機構は明らかになっていない。

今回、新規リンパ管新生因子としての CCN2 を検証した。

CCN2 がリンパ管新生因子であることを直接的に確かめるために、*in vivo* Matrigel plug assay を行ったところ、

ろ、CCN2 はリンパ管新生を促進していた。リンパ管内皮細胞 (LEC) を用いてシグナル解析を行ったところ、CCN2 は integrin $\alpha v \beta 5$ 、 $\alpha v \beta 3$ を介して ERK を活性化するとともに、CCN2 は ERK と ERK の不活性化酵素である DUSP6 の結合を増強した。この DUSP6 をノックダウンすると CCN2 による ERK の活性化が亢進したため、CCN2 リンパ管新生シグナルは DUSP6 によって負に制御されていることがわかった。LEC の三次元培養では DUSP6 をノックダウンすると CCN2 誘導管腔形成がさらに亢進した。すなわち、CCN2 によるリンパ管新生は、自身のリンパ管新生シグナルが過剰にならないよう、DUSP6 を介して巧妙に制御していることを見出した。

Trophic and Immunomodulatory Effects of Adipose Tissue Derived Stem Cells in a Preclinical Murine Model of Endometriosis (論文)

福岡大学病院 産婦人科 平 川 豊 文 (36 回生)



当教室では不妊症と再生医療をテーマに研究を行っており、本論文は、子宮内膜症に対する脂肪組織由来間葉系幹細胞 (ASCs; Adipose Tissue Derived Stem Cells) による細胞療法の有効性と

その機序について、モデルマウス

を用いて評価した研究である。不妊症の原因疾患は多岐にわたるが、その中でも子宮内膜症は不妊症の原因疾患として重要な疾患である。その病態の中心である炎症と線維化を同時に改善できる ASCs による細胞治療は、同疾患への治療応用の可

能性があると着想した。本研究は、子宮内膜移植説を基にした子宮内膜症モデルマウスを作成して ASCs を尾静脈より投与し、病変の肉眼的所見 (個数、重量、表面積)、組織学的所見 (HE 染色、MT 染色、Ki67 免疫染色)、遺伝子学的所見 (RT-qPCR) により検討を行った。投与された ASCs は炎症の主座である子宮内膜症病変へ集積を認め、抗炎症作用によって子宮内膜症病変を縮小させることで、子宮内膜症患者の革新的な治療法となり得る可能性を示した。

本論文作成にあたり、御指導いただきました宮本新吾教授、並びに共著者の先生方に、心より感謝申し上げます。

A high serum cortisol/DHEA-S ratio is a risk factor for sarcopenia in elderly diabetic patients (論文)

福岡大学医学部 内分泌・糖尿病内科学 柳 田 育 美 (34 回生)



【目的】高齢者糖尿病におけるサルコペニアの予測因子を明らかにするため、ホルモン因子としてコルチゾールと DHEA-S にフォーカスを当て研究を行なった。

【方法】対象は当院の65歳以上の高齢者2型糖尿病患者108人

(年齢 76.2 ± 7.3 歳、男性 43.5%)。年齢、性別、体重、血圧、コルチゾールと DHEA-S を含む血液検査成績、認知機能、動脈硬化、骨粗鬆症、フレイル、薬剤を評価し、サルコペニアの診断は、筋力として握力、身体機能として歩行速度、筋肉量として BIA 法で測定しアジアの診断基準を用いた。

【結果】重回帰分析の結果、血中コルチゾール/DHEA-S 比 ≥ 0.2 ($P=0.005$)、ABI < 1.0 ($P=0.015$)、拡張期血圧 < 70 mmHg ($P=0.023$)、Hemoglobin $<$

13g/dl ($P=0.040$) の順に、サルコペニアの独立した予測因子であることが明らかになった。サルコペニア群では血中コルチゾール値の有意高値と DHEA-S 値の有意低値を認め、その結果、血中コルチゾール/DHEA-S 比は有意に高値を示した。さらに血中コルチゾール/DHEA-S 比は、サルコペニアの重症度に相関して高値を示した。

【考察】サルコペニアの高齢者糖尿病患者は、コルチゾール高値を示す慢性ストレス状態であることが明らかとなった。コルチゾールの catabolic 作用による骨格筋萎縮の増強と DHEA-S の著減に伴う筋肉に対する anabolic 作用の減弱、DHEA-S の抗コルチゾール作用の減弱等の機序を介して、骨格筋の減少、すなわちサルコペニアにつながると考えられる。

最後に、福岡大学病院と牟田病院の、御指導頂きました諸先生方に、深く感謝申し上げます。

最優秀賞

福岡大学医学部 心臓・血管内科学

三根かおり先生 準会員

Kaori Mine, M.D.

Impact of Controlling a Nutritional Status Score on Wound Healing in Patients with Chronic Limb-Threatening Ischemia after Endovascular Treatment

令和4年度烏帽子会研究奨励賞



優秀賞

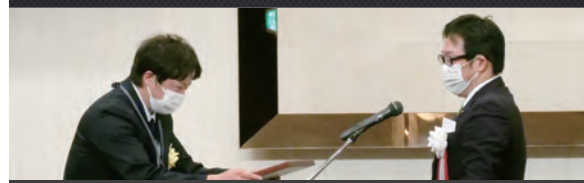
福岡大学医学部 整形外科

鈴木正弘先生 36回生

Masahiro Suzuki, M.D.

Leg Length Change After Curved Periacetabular Osteotomy and Its Impact on the Clinical Outcomes

令和4年度烏帽子会研究奨励賞



優秀賞

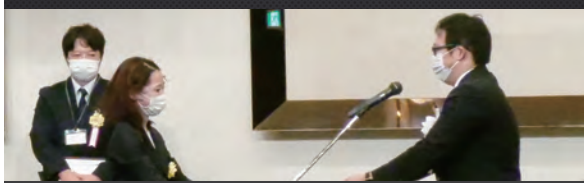
福岡大学医学部 歯科口腔外科学/再生・移植医学

橋口志保先生 準会員

Shiho Hashiguchi, DDS.

CCN2-induced lymphangiogenesis is mediated by the integrin $\alpha v \beta 5$ -ERK pathway and regulated by DUSP6

令和4年度烏帽子会研究奨励賞



優秀賞

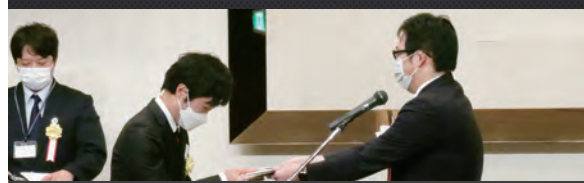
福岡大学病院 産婦人科

平川豊文先生 36回生

Toyofumi Hirakawa, M.D.

Trophic and immunomodulatory effects of adipose tissue derived stem cells in a preclinical murine model of endometriosis

令和4年度烏帽子会研究奨励賞



優秀賞

福岡大学医学部 内分泌・糖尿病内科学

柳田育美先生 34回生

Ikumi Yanagita, M.D.

A High Serum Cortisol/DHEA-S Ratio Is a Risk Factor for Sarcopenia in Elderly Diabetic Patients

令和4年度烏帽子会研究奨励賞



整形外科 山本卓明主任教授と



歯科口腔外科学 近藤誠二主任教授と



産科婦人科学 宮本新吾主任教授と



FU-OMSA賞状・タイバー授与

令和4年7月2日総会にて賞状と名前が刻印されたタイバーの授与を行いました。







FU-OMSA 受賞者 北村滉基



学生医学教育貢献者賞の授与

この賞は今年初めて設けられたものです。CBT、OSCE の法律に基づく公的化に伴い、目標となる学生の就学到達ラインが年々高くなっています。そのため、低学年での学力不足を補う目的で、多くの補習を教職員が行っている現状があります。また、高学年におきましても、実習指導などで、多くの時間を学生教育に費やしています。医

学教育推進講座、教務委員、各講座の教員、医学部事務課が一丸となって取り組むことが出来なければ、今年の国試の結果もなかったと、小玉医学部長が理事会でお話されました。そこで、理事会決定として、特に学生教育にご尽力を頂いた教育職員に感謝の気持ちを込めて「学生医学教育貢献賞」をお贈りすることになりました。

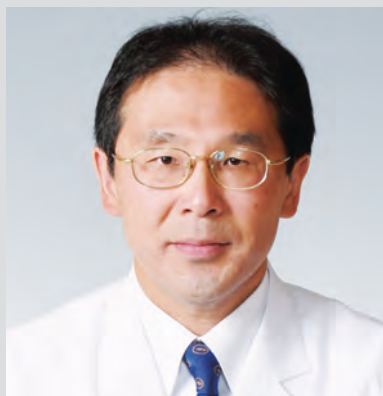


学外で活躍されている先生方の状況をもっとお伝えすることになりました。
73号では他大学で教授就任された先生方の近況をお知らせいたします。

教授就任挨拶

教授就任のご挨拶

福岡歯科大学総合医学講座 整形外科学分野 教授 西 尾 淳 (18 回生)



西 尾 淳
教授 略歴

1970 年 3 月 18 日生
昭和 63 年 青雲高校卒業

平成 7 年 3 月／福岡大学医学部卒業
平成 7 年 5 月／福岡大学病院研修医
(整形外科学講座) (平成 7 年 8 月まで)
平成 7 年 9 月／別府リハビリテーション
センター研修医 (平成 7 年 11 月まで)
平成 7 年 12 月／大分整形外科病院研修
医 (平成 8 年 2 月まで)
平成 8 年 3 月／福岡大学病院研修医
(整形外科学講座) (平成 8 年 3 月まで)
平成 8 年 4 月／福岡大学病院研修医
(病理学講座) (平成 8 年 5 月まで)
平成 8 年 6 月／国立療養所霧島病院研修
医 (平成 9 年 5 月まで)
平成 9 年 6 月／福岡大学筑紫病院医員
(整形外科学講座) (平成 11 年 3 月まで)
平成 14 年 4 月／福岡大学病院助手
(病理学講座) (平成 15 年 5 月まで)
平成 15 年 6 月／University of Nebraska
Medical Center (UNMC) 客員研究員
(平成 18 年 9 月まで)
平成 18 年 10 月／福岡大学筑紫病院助手
(整形外科学講座) (平成 19 年 3 月まで)
平成 19 年 4 月／福岡徳洲会病院整形
外科医員 (平成 20 年 3 月まで)
平成 20 年 4 月／福岡大学病院助教
(整形外科学講座) (平成 21 年 9 月まで)
平成 21 年 10 月／福岡大学医学部助教
(整形外科学講座) (平成 25 年 9 月まで)
平成 25 年 10 月／福岡大学医学部講師
(4 条 7 号) (整形外科学講座)
(令和 2 年 3 月まで)
令和 2 年 4 月／福岡大学病院講師
(整形外科学講座)
令和 2 年 10 月／福岡大学病院診療准教
授 (整形外科学講座)
令和 4 年 4 月／福岡歯科大学総合医学講
座整形外科学分野教授 (現在に至る)

福岡大学医学部同窓会会員の先生方におかれましては益々御健勝のこととお慶び申し上げます。私事で大変恐縮ですが、2022 年 4 月 1 日付けで福岡歯科大学総合医学講座整形外科学分野教授を拝命いたしました。

私は 1995 年に福岡大学医学部を卒業し、故緒方公介先生が主宰される福岡大学医学部整形外科学教室に入局しました。その後、1999 年から大学院生として、故菊池昌弘先生が主宰される福岡大学医学部病理学教室でヒト肉腫細胞株の樹立と骨軟部腫瘍発生にかかわる分子細胞遺伝学的異常の解明の研究に携わりました。大学院を早期終了後、2003 年からの 3 年間は米国ネブラスカ大学医学センターで骨軟部腫瘍のゲノム研究に従事しました。2008 年 4 月より福岡大学医学部整形外科の骨軟部腫瘍班のチーフとして、安全でより良質な医療を提供できるよう日々取り組んでまいりました。福岡大学病院では本当に充実した環境で仕事ことができましたことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

福岡歯科大学は 2022 年に開学 50 周年を迎えました。2013 年 4 月に総合医学講座の中に整形外科学分野が開設され、福岡大学医学部整形外科学教室から 2 名の先生が赴任し、教育、診療、研究を開始しました。2020 年 9 月から新病院での診療が開始となり、それに伴い、手術室が広くなり清潔度が向上したため可能な手術の範疇が拡大しました。現在は教員 3 名で診療にあたり、専門の骨軟部腫瘍に加え骨粗鬆症関連骨折 (大腿骨頸部・転子部骨折、橈骨遠位部骨折等) の手術も行っています。また、口腔外科をはじめ他科と連携して入院患者の運動療法、作業療法を施行しており、リハビリテーション治療による機能回復、活動の改善にも取り組んでおります。今後は「がんりハ」にも積極的に取り組み、多様化する患者さんのニーズに応えて生活の質の向上に貢献することで、整形外科の運動器診療科としての認知度と存在価値をさらに高めるよう努めてまいります。

これからも、福岡大学医学部同窓会会員の先生方との連携を大事にしながら診療を行いたいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

教授就任のご挨拶

島根大学医学部附属病院 医療安全管理部 教授 深見達弥 (22 回生)



深見達弥
教授 略歴

1975 年 3 月 15 日生

- 1993 年 熊本マリスト学園高校卒業
- 1999 年 福岡大学医学部卒業
福岡大学産婦人科入局
- 2009 年 博士【医学】修得
- 2009 年 カルフォルニア大学
ロサンゼルス校・博士研究員
- 2012 年 福岡大学産婦人科・助教
外来医長
- 2013 年 飯塚病院産婦人科・医長
- 2014 年 飯塚病院産婦人科・
診療部長
- 2015 年 飯塚病院外科系
リスクマネージャ兼任
- 2018 年 名古屋大学医学部附属病院、
患者安全推進部・病院講師
- 2019 年 同、副部長
- 2022 年 島根大学医学部附属病院・
病院長補佐、医療安全管理部
・教授

同窓会の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

2022 年 8 月 1 日付けで、島根大学医学部附属病院医療安全管理部の教授に就任し、併せて安全管理担当の病院長補佐を拝命致しました。

私は、福岡県飯塚市で生まれ育ち、熊本マリスト学園中・高校で男だらけの寮生活後、1993 年に福岡大学に入学しました。学生時代に所属していましたラグビー部 OB でもある、小林秀樹先生（4 回生）の薫陶を受け、1999 年瓦林達比古教授（当時）が主宰される福岡大学産婦人科に入局しました。2009 年には吉里俊幸先生（現：久留米大学産婦人科教授）、宮本新吾先生（現：福岡大学産婦人科主任教授）のご指導をうけ、博士（医学）を取得させていただきました。大学院卒業後に、カルフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）に留学し、2012 年の帰国後は福岡大学産婦人科勤務を経て、2013 年 4 月から地元である麻生飯塚病院に赴任しました。江口冬樹先生（6 回生）、辻岡寛先生（15 回生）、後藤麻木先生（21 回生）といった先輩方にご指導をいただきました。患者急変対応トレーニングなどの講習会で活動する中で、医療の質向上の必要性和、患者安全の重要性を認識しました。2016 年に名古屋大学で開催されていた「明日の医療の質向上をリードする医師養成事業」ASUISHI プロジェクトに参加したことから、医療全体のリスク、不確実性に対峙すること、医療の質・安全を担保していく社会づくりは私の使命と考え、国内最高峰の医療安全体制を有する名古屋大学に飛び込み、患者安全と医療の質向上に努めました。また、長尾教授を統括責任者とする「最高質安全責任者 CQSO プロジェクト」の運営を行い日本全国の医療安全を専門とする医師の育成に関わりました。このような経緯で、ご縁をいただき島根大学に赴任しました。

医療安全は、多くの診療科や多職種の方々の力添えが必要です。今後も各部署との連携を密にとりながら臨床、研究、教育活動を行います。

患者安全学は新しい学問分野であり、この分野のリーダーとして島根大学だけでなく、世界の患者安全の発展のために少しでも貢献できるよう精進したいと思っています。引き続き、御指導御鞭撻の程宜しくお願い致します。

教授退任挨拶

福岡大学退官に際して

福岡大学名誉教授（前福岡大学スポーツ科学部） 岩 本 英 明 （5 回生）



福岡大学スポーツ科学部での 32 年間を終えることになりました。思い出すことは沢山ありますが、少し書き留めておきたいと思います。高校卒業後一度は東京の大学で経済学部にも所属していました。色々将来の事を考えていた頃に、高校時代の友人から『福岡大学に医学部が新設されるみたいだよ』の一言で方向を転換し、医学部を目指し何とか合格でき、何とか医師免許を習得できました。あまり真面目な学生でなかったために時間はかかりましたが・・・医学部卒業後は整形外科教室に入局し、大分日赤病院で研修を受け、医員を経て大学院にすすみ、そしてやっと整形外科医としての診療ができると思っていた矢先に、当時の整形外科教授でおられた高岸直人名誉教授から突然、『体育学部に大学院ができるので、助教授として行かないか?』といわれ、当然のことながら一度はお断りしたのですが、『君は福岡大学医学部出身だし、君が行かないと他の大学から採用されることになるよ』と男気をくすぐることを言われ、平成 2 年 4 月に就任する事を決心しました。その時は、こんなに長いつもりはなかったのですが……。体育学部というのがまったくわからないまま赴任し、自分なりに一

つ一つ構築していくのは大変でした。その中で学部が体育学部からスポーツ科学部に変更されたときに、カリキュラムの名称を、スポーツ外傷・障害から、初めて『スポーツ整形外科学』と名付け、さらに健康運動指導士の認定のためのカリキュラム名を、『健康運動器外科学』と名付けました。厚労省からは、良いネーミングですねと回答を得た事を思い出します。

最後にスポーツ選手への診療について常々思っていた事を話します。スポーツ選手にとって最も重要なことは、できる限り早く外傷・障害の診察、診断、治療、復帰を行う事です。その点大学病院という組織では、フットワークが悪く無理だと思います。ですからその条件をクリアできる関連病院が必要です。その関連病院との連携のお陰で、選手の早期診断、治療、復帰を一貫して診ることが出来た事は、私にとってかけがえのない経験と宝になりました。このスポーツ科学部での経験を生かして、また福岡大学医学部出身であるという誇りを持って、もうしばらくは、整形外科診療を通じて、社会貢献を続けていきたいと思っています。



令和5年度 福岡大学医学部同窓会烏帽子会

研究奨励賞募集要項

対 象：正会員及び準会員で、40才未満の者または学部卒業後10年未満の者
(本会会費完納を条件とする)

研究課題：医学に関するものであれば自由(医学に関する研究計画又は研究論文)

申請方法：所定の申請書による(所定欄に支部長推薦を要す)

提出先：〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局
TEL 092-865-6353(直通) 代表 092-801-1011／内線 3032 Fax 092-865-9484

締 切：令和5年5月8日(月)提出は一人一件とする

賞状・賞金：奨励賞(優秀論文賞を含む)5件以内

発表及び表彰：令和5年7月2日(土)予定、第42回合同福岡大学医学部同窓会烏帽子会総会席上
必ず出席する事

そ の 他：①論文受賞者は抄録を提出すること
計画受賞者は1年後研究成果報告書を提出すること
②申請書は同窓会事務局に請求又は同窓会ホームページからダウンロードの事
③申請書はワープロで記載し、過去の研究業績(原著、著書、症例報告、学会発表)、
研究の独創性・重要性を十分に書く事

※準会員の方もご応募ください。

福岡大学医学部同窓会烏帽子会

在外研修援助金 募集要項

長期研修

対 象：正会員、準会員(本会会費完納を条件とする)で医学の研究または医療技術の習得のため、
3ヶ月以上外国に留学する者

申請方法：所定の申請書により留学出発3ヶ月前までに提出の事

提出先：〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1
福岡大学医学部同窓会事務局
TEL 092-865-6353(直通) 代表 092-801-1011／内線 3032
FAX 092-865-9484

援助金：1件20万円を限度とし、年間5件以内

発表：本人に文書にて連絡

そ の 他：①受給者は帰国後その成果を同窓会会報に発表する事
②申請書は同窓会事務局に請求又は烏帽子会ホームページからダウンロードの事
③研修中に生じた問題については同窓会は関与しない

※なお在外研究援助金をうけ留学している者は、出来る限り学生会員海外研修助成事業に賛同し、
渡航研修する受け入れ側施設担当者として、協力する事が望ましい。

◆評議員会議事録は今後、要約・議決事項を掲載いたします。（令和4年11月理事会決定）

令和3年度 評議員会

◆日時 令和4年4月23日 16時

◆場所 TKP ガーデンシティー
PREMIUM 天神スカイホール

◆出席 評議員会：
出席理事監事 18名、評議員 18名（支部長2名）、
支部長2名、WEB出席 31名、委任状 26名

◇経過報告

◆会長交代の経緯並びに報告

◆黙祷 亡くなった先生方を悼み黙祷。

◆第116回医師国家試験状況

◆令和3年度研究奨励賞受賞者

◇議題 1. 令和2年度収入支出決算見込

◇議題 2. 令和3年度事業報告及び

令和4年度事業計画（案）について

①会報の発行

令和3年度年2回発行。令和4年度も年2回発行。
入学者分冊数増加のため予算増額。

②総会の開催

令和3年度 WEB 併用開催。
令和4年度も WEB 併用開催の可能性があり予算増額。

③支部活動援助

令和3年度講師招聘援助金の申請なし。
支部活動援助 金は支部徴収件数分援助。
令和4年度予算は令和3年度と同額。

④研究奨励賞

令和3年度最優秀賞1名、優秀賞3名、奨励賞1名、
激励賞7名授与。
令和4年度予算は令和3年度と同額。

⑤在外研修援助金

令和3年度1名援助あり。
令和4年度予算は令和3年度と同額。

⑥学生会員支援

令和3年度 M1T シャツ作成、M4CBT 特別講義実施。

令和4年度予算は令和3年度と同額。

⑦白衣贈与

令和3年度 M1 白衣、M5 白衣作成。
令和4年度予算は令和3年度と同額。

⑧国試対策費

令和3年度国試直前セミナー、国試応援袋実施。
令和4年度予算は令和3年度と同額。

⑨支部祝儀贈与

令和3年度実施なし。
令和4年度予算は令和3年度と同額。

⑩学生行事援助

令和3年度実施なし。
令和4年度予算は令和3年度と同額。

⑪学会寄付

令和3年度3件の申請あり。
令和4年度予算は令和3年度と同額。

⑫慶弔贈与

令和3年度2名の新教授誕生慶事、卒業生1名の弔事あり。
令和4年度予算は令和3年度と同額。

⑬グッズ作製

令和3年度作成なし。令和4年度予算計上なし。

⑭会員名簿

令和3年度調査実施。令和4年度印刷発行。
令和4年度予算は令和3年度より予算減。

⑮奨学金緊急貸与

令和3年度作成なし。令和4年度予算計上なし。

⑯パニックマニュアルの発行

令和3年度ホームページ設置費用。
令和4年度予算計上なし。

⑰縁結び

令和3年度縁結び案内申込書、ドメイン料。
令和4年度予算は令和3年度と同額。

⑱保険コンサルティング紹介

令和3年度事務諸経費なし。
令和4年度予算は令和3年度と同額。

⑲ホームページ

令和3年度WEBサイトサイバー費。
令和4年度予算は令和3年度と同額。

⑳大学院生援助

令和3年度1名援助。
令和4年度は基礎系も含め10名まで増員のため予算増額。

◇議題3. 令和4年度収入支出予算（案）

◇議題4. 規約改正について

提案した内容を基本とする。
訂正変更があればその都度提案し承認を得る。
議題1～4 承認

◇議題5. 決算評議員会省略の件 承認

◇議題6. 福岡大学医学部同窓会烏帽子会
第41総会

◇議題7. 新教授紹介・ご挨拶

福岡大学医学部脳神経外科学教授
安部 洋 先生 20回生

令和4年4月1日より福岡大学医学部脳神経外科教授を拝命いたしました。教授選考の際には烏帽子会の先生方から多くの支援ご指導をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。今後も福岡大学発展の為に益々精進したいと思っております。今後ともご指導の程よろしくお願いします。

福岡大学医学部病理学教授
濱崎 慎 先生 20回生

令和4年4月1日より福岡大学医学部病理学教授を拝命いたしました。教授選に当たっては同窓の先生方に多大なるご指導をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。私は福大卒業後九州医療センターで研修した以外はずっと福大で勤務させていただいております。福大の同窓教授が増えていく様子を近くで眺めながら自分がそこに入る事にたいして多大な重圧を感じておりますが、微力ながらこの恩を医学部、あるいは病院の発展のために貢献

することでお返ししたいと思います。今後ともご指導の程よろしくお願いします。

福岡大学スポーツ科学部教授
重森 裕 先生 24回生

平成29年よりスポーツ科学部に赴任いたしまして、令和3年10月1日皆様のお力添えをいただきまして教授昇格となりました。医学部から少し遠い所にはありますが、烏帽子会員の一人として医学部を支え福岡大学の為に今後も寄与できるように努力していきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひします。

福岡大学スポーツ科学部
吉村 一郎 先生 17回生

令和4年4月1日付けでスポーツ科学部教授を拝命いたしました。昨年までは整形外科で診療させていただき先生方にはお世話になりました。本年度からはスポーツ科学部での教育と病院での診療にも当たらせていただいております。多忙で少し悪戦苦闘しておりますが、スポーツ科学部と病院の方で連携して福岡大学の発展に貢献できればと考えております。今後とご指導ご鞭撻の程よろしくお願いします。

高木忠博前会長は、福岡大学医学部医学科の第1回生として卒業され、30年間に及ぶ烏帽子会会長任期中に多大な業績を残され、その功績は永く記憶されます。特に、任期の最後に同級生の学長就任を祝われたのは、すべての大学同窓会会長としての大きな事業を成し遂げられました。くわえて、福大の開設以来、初の同窓生学長かつ医学部出身学長の誕生、同時に卒業生の医学部長、3名の福岡大学の卒業生の病院長就任を見て、学生から学長に至る全ての同窓会員からの感謝を受けながら退任された。その任を引き継いでゆくすべての人は、その去就の清香を伝え、永く会員諸氏を励まさねばならないと思われまふ。

同窓会報では以前も教室医局紹介を掲載しておりました。教授が代わられた講座が増えましたので 69 号より順次教室紹介を掲載しております。

教室紹介

生理学講座

『臨床医学の発展につながる生理学教育・研究』を目標に

福岡大学医学部 生理学 教授 藤 田 孝 之 (特別会員)

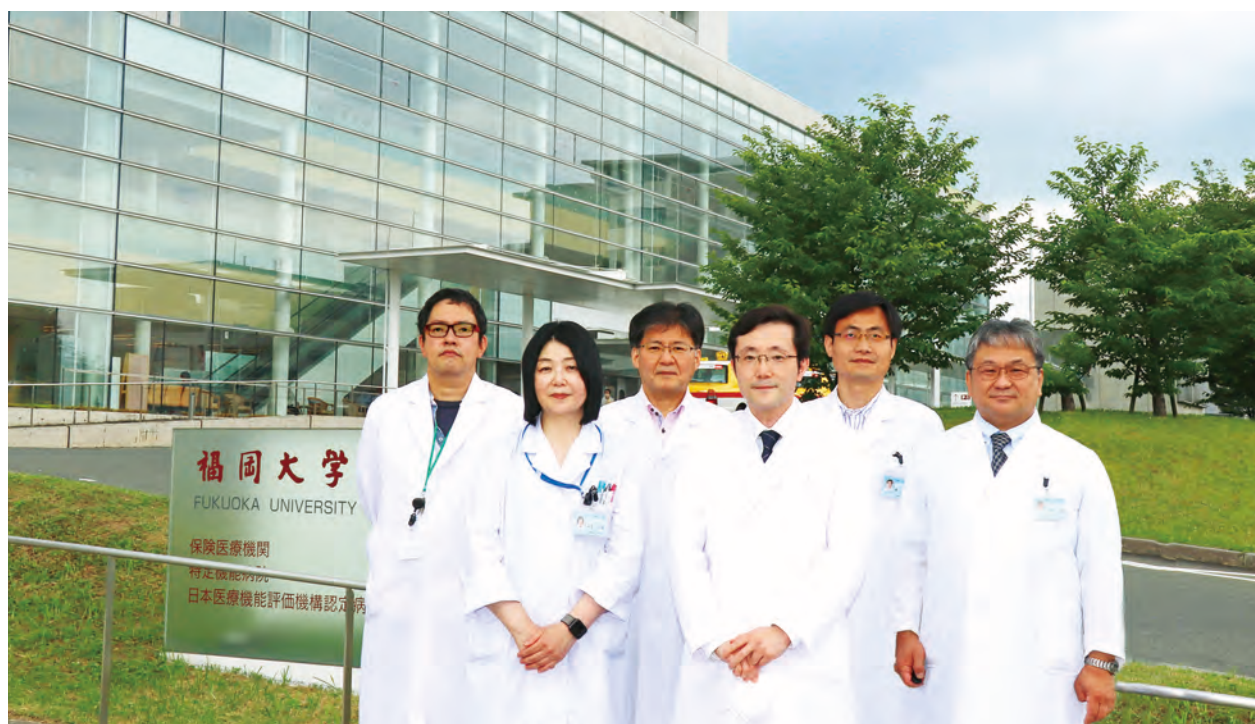
【教育】

生理学は、生命現象を主に“機能”の側面から明らかにする学問です。生理学の講義・実習は、学修する個々の“知識”と生体の様々な“機能”とのつながりが意識できるように、ひいてはその知識を用いて疾患の発症や増悪のメカニズム、治療戦略の考察ができるように構成しています。また学修の課程で現在の医療の限界や更なる可能性を知り、医学研究の重要性、魅力を理解することから学生のリサーチマインドを育て、医療の発展に寄与する医師となるサポートをしていけるよう努力を続けています。

【研究】

動物実験や培養細胞を用いた実験、灌流心臓の実験などに加え、電気生理学や分子生物学、数理生物学的手法などを用いて、医療の発展につながる報告を続けています。cAMP、cGMP、Ca²⁺などのセカンドメッセンジャーを介する自律神経系などの情報伝達、心疾患における心筋細胞死の制御機構、イオンチャネルの機能制御機構、電磁波や超音波などの治療への応用の可能性などに注目し、心不全、不整脈などの循環器疾患や悪性腫瘍に対する、有用な治療法の確立を探索しています。

生理学講座は、『臨床医学の発展につながる教育・研究』を目指しています。



腎臓・膠原病内科学講座

福岡大学医学部 腎臓・膠原病内科学 教授 升 谷 耕 介 (特別会員)

当教室の前身は2000年に第二内科学から分かれて発足した第四内科学で、2007年に呼吸器内科学と別れ現在に至ります。大学には医学部教員5名、病院教員2名、助手9名、大学院生2名が在籍し、福岡市および近郊の関連施設では教室員が地域医療に貢献しています。

腎臓内科では腎炎・ネフローゼ症候群に対して免疫抑制薬や各種腎保護薬の使用により進展阻止を図ります。それでも末期腎不全に達する場合は血液透析、腹膜透析、腎移植の全てに対応しています。膠原病診療も進歩し、関節リウマチや全身性エリテマトーデスは生物学的製剤等により高い寛解率と長期予

後の改善を認めています。

最近はコンスタントに毎年3～4人の入局者を迎え、内科学会(基本学会)の他、腎臓学会、透析医学会、リウマチ学会等のサブスペシャリティ学会の専門医資格取得を目指し研鑽を積んでいます。その後は希望に応じて大学院に進学します。教室の研究は疫学研究に重きを置いており、長崎県壱岐市を拠点として衛生・公衆衛生学教室と共同研究を行っています。

教室員は若く、人材育成は重要課題です。全国どこに行っても通用し、全ての患者とスタッフから信頼される医師、研究者の育成を目指しています。



着任後 2 年経過のご報告

福岡大学医学部 腎泌尿器外科学 主任教授 羽 賀 宣 博 (特別会員)

福岡大学に着任してから、早いもので 2 年が経過しました。コロナ禍のために、ほとんど拙宅と大学の行き来で終始していましたので、教室の運営や土台作りに注力できたのではないかと考えています。

診療面に関しましては、「安全・安心の医療のご提供を第一に」をモットーに、私の専門領域とするロボット手術に関しては、腎盂尿管移行部通過障害に対するロボット支援腎盂形成術の導入を九州地方ではいち早く導入しました。複数の学会等でその良好なデータを公表しております。さらに、膀胱がんに対する膀胱全摘除術も令和 3 年から導入し、令和 4 年度からは、腎癌や腎盂尿管がんに対する腎全摘術の導入

に成功いたしました。

研究面に関しては、科学研究費を始め、複数の競争的研究助成金を獲得しながら、着実にデータを集積しております。昨年は、国際学会で 2 つデータを公表し、1 つの発表は優秀演題賞に選ばれるなど、国際的な評価も上げています。今後が非常に楽しみです。

本年度は 3 名の新たな仲間を迎えることになりました。こちらに関しては、約 20 年ぶりのことで大変喜ばしい限りです。当講座におきましても、更に充実した医療・研究・教育を展開したいと考えております。



再生・移植医学講座

福岡大学医学部 再生・移植医学 教授 小 玉 正 太 (13 回生)

本講座は近年発展が著しい再生・移植医療に関する基礎研究、臨床研究、およびこれを担う人材育成を行うために2007年に創設された。現在、小玉を中心とするスタッフのもと、多くの大学院生が研究に励んでいる。本教室では「学術には厳しく、人には優しく」をモットーに、基礎医学の知識を持ったリサーチマインドのある医師の育成を目指している。研究は、臍島移植や移植免疫の研究に始まり、尿道再生、副腎再生、血管・リンパ管再生など多岐にわたる最先端の基礎研究を行い、新規の組織/細胞治療開発のためのトランスレーショナルリサーチに力を入れている。

学生教育においては、M1 医学入門、M2 研究室配属、M4 の臨床学生講義を担当し、特に M2 の研究室配属では毎年5-6名の学生を受け入れ、実際に基礎研究に携わってもらい、臨床の場に適う教育を行っている。

本教室が関わった先進医療の臍島移植は、2020年に保険診療となり、現在、福岡大学病院にて実臨床として行われている。前臨床研究から実臨床へとつながる実のある研究を行うことで社会的責任を背負い、実学の精神を学んでもらうことで、今後の医療の発展に貢献できる人材育成に寄与していきたい。



学生会員支援報告

令和4年度 M4CBT 激励会の報告

福岡大学病院 卒後臨床研修センター 北 島 研 (21 回生)

2022 年 7 月 28 日、M4 学生が夏休みに入った初日の夕方、外気温が 36℃ を超え、にわか雨が止んだところ、医学部 RI 大講堂で朝から行われていた国試予備校 TECOM 講師による第 1 回 CBT 対策特別講義が終わりました。昨年の CBT 対策特別講義は成績下位の学生を対象として烏帽子会の M4 学生対策費用から援助させて頂き、受講生の満足度 94% 以上と好評を得ていました。今年の特別講義は父母会の援助で、第 1 回目は M4 学生全員が対象となりました。そのため講義終了直後に医学部第 2 中講堂にて開催した今年の烏帽子会主催 M4CBT 激励会には、96 名と多くの M4 学生に参加して頂くことができました。

同窓会長の小玉正太医学部長からご挨拶の後、M5 学生 4 名の講演を頂きました。Web 参加で田畑堅太郎さん、現地講演では河端諒真さん、和田悠太郎さん、楠本健太郎さんの順で、それぞれの経験を基に CBT 対策や勉強法、受験に向けた生活の仕方を語ってくれました。M4 学生からは質問も出て、皆が興味深く聞き入っていました。最後に各班担任の先生から激励の言葉を頂き、M4CBT 激励会は終了

となりました。終了後には烏帽子会提供の「吉塚うなぎ屋 うな重」を各班担任の先生オリジナルのメッセージカードを添えて、班員ひとりひとりに声をかけながら手渡して頂きました。新型コロナウイルスの第 7 波の中でもあり、うな重弁当は各自持ち帰って、自宅で食べて頂きました。暑い夏休みを乗り切る栄養源となったと思います。

今年の CBT 共用試験は臨床実習開始前の 11 月 1 日に実施されました。7 月に行った激励会は、コロナ禍以前に行っていたホテルでの会食形式ではなく、いつもの講義室で 30 分ほどの会でしたが、1 学年上の先輩 M5 学生と各班担任の先生から密度の濃い、そして即効性のあるメッセージを M4 学生に届けることができましたと感じています。

末筆ではございますが、ご参加頂いた M4 学生の皆様、ご発表頂いた M5 学生の皆様、お忙しい中お越しいただいた班担任の先生、企画よりご指導頂いた医学教育推進講座 安元佐和教授、会場運営を行って頂いた医学部事務課の皆様、そしてお弁当の提供を頂いた烏帽子会の皆様に、心より感謝申し上げます。

M4CBT激励会式次第



- 同窓会長・医学部長挨拶 小玉正太先生 (13回生)
- M5学生発表 (4名: うち1名はWeb参加)
- 班担任挨拶 (8名ご参加)
- 班担任の先生より「吉塚うなぎ屋 うな重」配布
M4学生116名在籍中、96名 (83%) 参加

M5 学生発表 (4 名: 発表順)

- M5 田畑堅太郎さん (Web参加)



- M5 河端諒真さん



- M5 和田悠太郎さん



- M5 楠本健太郎さん



M4各班担任 8名の先生にご挨拶を頂きました



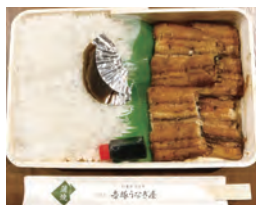
- 1班 副主任 微生物・免疫学
廣松賢治先生
- 2班 主任 耳鼻咽喉科 坂田俊文先生
(10回生：写真上)
- 3班 腎泌尿器外科 羽賀宣博先生
- 4班 救命救急センター 岩朝光利先生
(17回生)
- 5班 精神神経科 堀輝先生(写真下)
- 6班 放射線科 高山幸久先生
- 8班 整形外科 木下浩一先生
(26回生)
- 10班 医学系研究・生命医療倫理
今泉聡先生 (25回生)

M4班担任の先生より各班学生にお弁当を配布頂きました



- 1班担任・学年副主任
微生物・免疫学 廣松賢治先生
- 3班担任 腎泌尿器外科
羽賀宣博先生
- 10班担任 医学系研究・
生命倫理 今泉聡先生 (25回生)

お弁当「吉塚うなぎ屋うな重」



- 各班担任の先生からのメ
ッセージカード付き

各班担任の先生からのメッセージカードご紹介

- CBT頑張ってください。応援しています。(共通メッセージ)
- 医師になるための第一歩目となる大切な全国共通試験です。
普段通りに実力が出せれば必ず合格できます。
(4班担任 岩朝光利先生)
- 「がんばります」より「がんばりました」を聞きたいです。
私は、全力で応援しています。(5班担任 堀輝先生)
- CBT頑張ってくださいね。実力を出し切れれば、必ず突破でき
ます。陰ながら応援しています。(6班担任 高山幸久先生)
- わからない問題があったら、まずは深呼吸をしてください。
陰ながら応援しています。(9班担任 古賀文二先生)

班担任の先生、M5学生からのご講評

- このような機会は学生にとって有用だと思います。福大
ならではの学生に寄り添った教育方針に賛同しておりま
すので、これからも参加させてください。
(4班担任 岩朝光利先生)
- お弁当を渡すときの学生の笑顔が印象的でした。
(5班担任 堀輝先生)
- 素晴らしい企画で、学生とコミュニケーションができて
良かったです。(10班担任 今泉聡先生)
- このような場をご準備頂きありがとうございます。
(M5学生発表者 河端諒真さん)

3班担任腎泌尿器外科羽賀宣博先生からのご講評

- 福岡大学に着任して、1番感激を受けたことが、学生に対し教
員の先生方が親身になり、心の底から応援・指導している姿
勢です。私も、今回お声がけ頂き、及ばずながら激励会に参
加させていただきました。学生諸君の少しでも力になればと
思います。
- M4学生に対するメッセージ
君はひとりではない。
医学の勉強を行っている、ふと試験や進級のことで不安に
なることがあります。同級生も、そして、いま第一線で活躍
している眩いばかりの先生方も、同じような気持ちにならな
かった人はいません。勉強をして分からない、そして不安を
感じることは当然です。まず気持ちを打ち明ける勇気を持つ
こと。激励会でも先輩や担任の先生方がおっしゃっていたよ
うに、誰にでもいいです、相談してください。きっと力にな
ってくれる人がいます。

2班担任・学年主任耳鼻咽喉科坂田俊文先生からのご講評

- 構成とテンポがとても良く、これまでの会で最も印象に残り
ました。
- 迷子になった学生さんが道をみつけるまでの課程もよくまと
まっており、人の気持ちを理解できる医師になるような期待
感を持つことができました。
- 最近は世代が若くなったせいか、自分の苦労話や叱咤激励の
言葉だけを繰り返す教員が減ったのは良いことだと考えてい
ます。
- 今の学生さんを分析して具体的な指示を出すことが何よりも
大切だと思います。
- 勉強ができない人も含め、頭は回る人がほとんどですから、
ロジックがしっかりしていないと響きません。福大と性格の
似た大学の学生さんがどのような取り組みをしているのかな
ど、データが欲しいと思いました。

訃 報

正 会 員	香 月 正 嗣 先生		ご逝去 (5 回生)
正 会 員	香 德 永 剛 先生	令和 3 年 7 月 3 日	ご逝去 (5 回生)
正 会 員	東 英 二 先生	令和 3 年 6 月 27 日	ご逝去 (7 回生)
正 会 員	山 縣 久 幹 先生	令和 4 年 2 月	ご逝去 (6 回生)
特別会員	黒 田 健 先生	令和 3 年 11 月 24 日	ご逝去
特別会員	小 田 禎 一 先生	令和 4 年 1 月 9 日	ご逝去
特別会員	西 園 昌 久 先生	令和 4 年 4 月 19 日	ご逝去
特別会員	田 中 彰 先生	令和 4 年 6 月 17 日	ご逝去

西園昌久先生を偲んで

医療法人 祥風会 甘木心療クリニック 部長 高 良 由貴夫 (1 回生)



令和 4 年 4 月 19 日先生の訃報が訪れました。「4 月 19 日の未明に足が腫れて 痛みがある」と言われて、救急車で運ばれる途中にお亡くなりになられたという連絡でした。

先生は、ご存命中は精力的に国内の学会で講演されておりました。20 日の日も講演の予定があったということでした。我々同門は先生の背中を見て、先生のように生きていくことを目標としておりました。残念にも、別れは突然におとずれました。

先生は福岡大学医学部精神医学教室の初代教授として、また医学部の全ての教授とともに、「臨床医を育てる」という目標を掲げられ力を合わせてこられました。

一回生は福岡大学医学部という出来立ての中で、

右も左も分かりませんでしたがそれぞれに、目標の「臨床医を育てる」に向かって努力してきたように思います。

特に、先生は 10 年という長きに渡り医学部長を務められました。「福岡大学を西の慶応に」という思いがあり医学部の基礎作りをされたように思います。この思いは現在、朔 啓二郎学長に受け継がれ「西の福岡大学」として、凛として存在していると思っています。

先生の教室での教育は、全く手を抜かれることなく、それぞれの医局員に研究テーマを与えられ、「精神分析を中心とした精神療法」や「力動精神医学」を教えられてきました。私は、教室の中では門前の小僧で専門にはなれませんでした。が、外来でベシユライバーをする機会があり「先生の患者さんへの向かい方や面接の対応」を数多く教えていただきました。

私は 10 年経たずに朝倉 (甘木病院) に戻りました。その後も先生と面談の機会をいただき、病院のことなど相談させていただきました。本当に感謝いたしております。

現在、私も 70 歳を超え高齢者となり先が見えてきている今、西園先生の姿を思いながら、常に患者さんのために出来ることをやらねばと改めて感じる次第です。

西園先生、ゆっくりと休まれてください。ありがとうございました。

福岡大学医学部同窓会諸表

令和3年度収入支出決算

区分	科 目	R3 年度予算	R3 年度決算	R2 決算予算比較	R3 決 算 内 訳
収 入	繰 越 金	13,993,699	13,993,699	0	
	会 費 収 入	30,440,000	27,247,807	3,192,193	入会費：4,963,973 学年会費：4,507,833 年会費：17,575,818 準年会費：200,183
	保険コマーシャル広告料	250,000	250,000	0	
	雑 収 入	20,000	92	19,908	預金利子
	預 り 金 収 入	40,000	76,312	▲ 36,312	給与源泉徴収
	仮 入 金	0	0	0	
	合 計	44,743,699	41,567,910	3,175,789	
支 出	給 与	3,330,000	2,989,980	340,020	
	旅 費	2,400,000	1,012,140	1,387,860	役員旅費：353,620 評議員会：135,160 通勤旅費：171,200 その他：352,160
	事 務 用 品 費	400,000	322,852	77,148	
	印 刷 費	3,760,000	2,682,722	1,077,278	会報：2,520,273 封筒：107,800 その他：54,649
	通 信 運 搬 費	2,000,000	1,764,878	235,122	電信電話：68,333 会報：936,263 切手葉書：121,620 その他：638,662
	設 備 工 事 費	400,000	303,600	96,400	ホームページ更新料
	什 器 備 品 費	240,000	161,627	78,373	液晶ディスプレイ他 WEB 関連, FAX 付き複合機
	事 業 費	18,884,000	10,987,398	7,896,602	総会費：2,343,461 研究奨励賞：923,500 在外研修援助金：200,000 学生会員支援：1,301,682 国試対策費：568,503 支部活動費：1,760,457 大学院生への援助：120,000 M1M5 白衣贈与：1,613,715 慶弔費：1,261,000 学会寄付：450,000 縁結び支援費：155,540 WEB サイト：23,540 規約作成：266,000
	会 議 費	2,300,000	2,640,693	▲ 340,693	理事会、会長懇話会：1,536,905 評議員会：952,288 各種会議他：151,500
	公 租 公 課	10,000	4,000	6,000	収入印紙
	雑 費	71,000	71,000	0	福岡県民税：21,000 福岡市民税：50,000
	預 り 金 支 出	2,033,000	765,076	1,267,924	税理士報酬：33,000 業務用グッズ：22,319 その他：709,757
	引 当 金 積 立	40,000	74,022	▲ 34,022	給与源泉徴収税
	借 入 金 返 却	6,000,000	0	6,000,000	
	予 備 費	0	0	0	
	合 計	2,875,699	0	2,875,699	
	収 支 差 引	44,743,699	23,779,988	20,963,711	

令和3年度残金処分

残金額（収支差引額）	17,787,922 円
奨学金積立金積立	0 円
刊行物積立金積立	3,000,000 円
事業積立金積立	1,000,000 円
次年度繰越	13,787,922 円

令和3年度特別会計決算

	事業積立金	奨学金積立金	刊行物積立金	合 計
前年度より繰越	84,272,600	14,334,623	8,011,839	106,619,062
本年度増加額	4,000,000	372,500	6,100,000	10,472,500
本年度受取利息	1,823	68		
本年度減少額	▲ 1,000,880	▲ 550	▲ 716,978	▲ 1,718,408
本年度未決算額	87,273,543	14,706,641	13,394,861	115,375,045

令和3年度事業報告と令和4年度事業計画

年 度 項 目	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業報告	令和4年度 事業計画	
	予算 (A)	実績 (B)	予算 (C)	C - A
① 会 報 の 発 行	3,784,350	3,456,536	3,807,850	23,500
② 総 会 の 開 催	600,000	2,667,449	2,500,000	1,900,000
③ 支 部 活 動 援 助	2,000,000	1,760,457	2,000,000	0
④ 研 究 奨 励 賞	2,000,000	923,500	2,000,000	0
⑤ 在 外 研 究 援 助	2,000,000	200,000	2,000,000	0
⑥ 学 生 会 員 支 援	3,600,000	1,301,682	3,600,000	0
⑦ 白 衣 贈 与	2,000,000	1,613,715	2,000,000	0
⑧ 国 試 対 策 費	2,000,000	568,503	2,000,000	0
⑨ 支 部 祝 儀 贈 与	230,000	0	230,000	0
⑩ 学 生 行 事 援 助	400,000	0	400,000	0
⑪ 学 会 寄 付	1,500,000	450,000	1,500,000	0
⑫ 慶 弔 贈 与	300,000	1,261,000	300,000	0
⑬ グ ッ ス 作 製	0	0	0	0
⑭ 会 員 名 簿 発 行	6,000,000	661,978	5,400,000	▲ 600,000
⑮ パニックマニュアル発行	0	55,000	0	0
⑯ 奨 学 金 貸 与	0	0	0	0
⑰ 縁 結 び	500,000	155,540	500,000	0
⑱ 保険コンサルティング	30,000	0	30,000	0
⑲ ホ ー ム ペ ー ジ	24,000	23,540	24,000	0
⑳ 大 学 院 生 援 助	600,000	120,000	1,200,000	600,000
その他会則及び規則規定作成他	0	266,000		
合 計	27,568,350	15,484,900	29,491,850	1,923,500

令和4年度収入支出予算

区分	科目	R3 予算	R4 予算	R4 年度予算摘要	R3 予算 - R4 予算
収 入	繰 越 金	13,993,699	13,787,922		205,777
	会 費 収 入	30,440,000	30,640,000	入会費：49,580×110人×0.80≒4,360,000 学年会費：9,797×550人×0.88≒4,740,000 年会費：9,797×3,310人×0.66≒21,400,000 準年会費：4,797×34人×0.86≒140,000	▲ 200,000
	保険コンサルティング広告料	250,000	250,000		0
	雑 収 入	20,000	20,000		0
	預 り 金 収 入	40,000	40,000		0
	仮 入 金				0
	合 計	44,743,699	44,737,922		5,777
支 出	給 与	3,330,000	3,330,000	パート1名、短期パート1名	0
	旅 費	2,400,000	2,400,000	役員旅費：600,000 評議員会：600,000 私大連絡会：500,000 通勤費：200,000 その他：500,000	0
	事務用品費	400,000	400,000		0
	印 刷 費	3,760,000	3,860,000	会報：3,200,000 封筒：500,000 その他：160,000	▲ 100,000
	通信運搬費	2,000,000	2,100,000	電信電話：100,000 会報：1,200,000 切手葉書代：300,000 その他：500,000	▲ 100,000
	設備工事費	400,000	400,000	維持契約費	0
	什器備品費	240,000	240,000		0
	事 業 費	18,884,000	21,384,000	総会費：2,500,000 研究奨励賞：2,000,000 在外研修援助金：2,000,000 学生会員支援費：3,600,000 国試対策費：2,000,000 学生行事援助費：400,000 支部活動費：2,100,000 支部祝儀：230,000 M1,M5 白衣贈与費：2,000,000 大学院生援助：1,200,000 慶弔費：300,000 学会寄付：1,500,000 縁結び (WEB サイトサーバー費含む)：500,000 保険コンサルティング：30,000 WEB サイトサーバー費：24,000 事業予備費：1,000,000	▲ 2,500,000
	会 議 費	2,300,000	2,800,000	理事会・会長懇話会：1,200,000 評議員会：800,000 各種委員会：300,000 その他：500,000	▲ 500,000
	租 税 公 課	81,000	81,000	法人県市民税：71,000 収入印紙：10,000	0
	雑 費	2,033,000	2,033,000	税理士報酬：33,000 渉外費：500,000 慶弔費：500,000 その他：1,000,000	0
	預 り 金 支 出	40,000	40,000		0
	引当金積立	6,000,000	3,000,000		3,000,000
	借入金返却				0
	予 備 費	2,875,699	2,669,922		205,777
	合 計	44,743,699	44,737,922		5,777
収 支 差 引		-	-		0

医局長・医長名簿 (○内の数字は福大医学部卒業回) (令和4年10月現在)

	医 局 長	病棟医長	外 来 医 長
〔 福岡大学病院 〕			
腫瘍・血液・感染症内科	佐々木 秀 法	中 島 勇 太 ③①	茂 木 愛 ②⑤
内 分 泌 ・ 糖 尿 病 内 科	高 士 祐 一	牟 田 芳 実 ③④	横 溝 久
循 環 器 内 科	杉 原 充 ②④	三 根 かおり	加 藤 悠 太 ③③
消 化 器 内 科	高 原 和 英 ②⑤	土 屋 直 壮 ③②	久 能 宣 昭 ③②
呼 吸 器 内 科	井 上 博 之	海 老 規 之	井 形 文 保 ③④
腎 臓 ・ 膠 原 病 内 科	伊 藤 健 二 ②⑤	氷 室 尚 子	冷牟田 浩 人
血液浄化療法センター		安 野 哲 彦 ②④	
脳 神 経 内 科	藤 岡 伸 助 ②⑥	三 嶋 崇 靖 ③①	合 馬 慎 二 ②③
精 神 神 経 科	飯 田 仁 志 ③②	畑 中 聡 仁	原 田 康 平
〃 (ディケア)			田 口 公 之
小 児 科	瀬戸上 貴 資 ②⑥	伊 東 和 俊 ③⑩	林 仁 美 ②③
消 化 器 外 科	塩 飽 洋 生 ②⑥	島 岡 秀 樹	中 島 亮
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	宮 原 聡	上 田 雄 一 郎	緑 川 健 介
整 形 外 科	萩 尾 友 宣	田 中 潤	廣 田 高 志 ③②
形 成 外 科	鈴 木 翔 太 郎	森 田 愛	前 岡 尚 憲
脳 神 経 外 科	小 林 広 昌 ③②	榎 本 年 孝 ③③	福 本 博 順 ③⑤
心 臓 血 管 外 科	林 田 好 生 ②⑩	藤 井 満 ③②	桑 原 豪 ②⑦
皮 膚 科	清 水 裕 毅 ③⑥	内 藤 玲 子	佐 藤 絵 美 ③⑩
腎 泌 尿 器 外 科	松 崎 洋 吏 ②⑦	宮 崎 健 ③④	岡 部 雄
産 婦 人 科	倉 員 正 光	井 槌 大 介 (産科)	宮 田 康 平 ②⑨(産科)
〃		吉 川 賢 一 ③⑥(婦人科)	野 口 幸 子 (婦人科)
眼 科	原 田 一 宏	上 野 智 弘 ③④	川 村 朋 子
耳 鼻 咽 喉 科	妻 鳥 敬 一 郎 ③②	打 田 義 則 ③④	前 原 宏 基 ③⑥
放 射 線 科	浦 川 博 史 ①⑤	赤 井 智 春 ②⑦	伊 東 絵 美
麻 酔 科	楠 本 剛	平 井 規 雅	柴 田 志 保 ②⑥
歯 科 口 腔 外 科	瀬 戸 美 夏	吉 野 綾	喜 多 涼 介
病 理 部	上 杉 憲 子		
臨 床 検 査 部	高 田 耕 平		
輸 血 部	熊 川 みどり		
救 命 救 急 セ ン タ ー	仲 村 佳 彦 ②⑦	森 本 紳 一 ③⑤	
総合周産期母子医療センター		宮 本 辰 樹 ②⑦(新生児部門)	
〃		洪 井 勇 一 (3階南病棟)	
総 合 診 療 部	加 藤 禎 史	崎 原 永 志 ③③	坂 本 篤 彦
東 洋 医 学 診 療 部			
〔 福岡大学筑紫病院 〕			
筑紫病院(総医局長)	井 上 貴 仁 ①⑤	(小児科)	
循 環 器 内 科	池 周 而 ②④	矢 野 雅 也 ③②	高 宮 陽 介 ②⑥
内 分 泌 ・ 糖 尿 病 内 科	阿 部 一 朗	工 藤 忠 睦 ②③	小 林 邦 久
呼 吸 器 内 科	串 間 尚 子	木 下 義 晃	吉 田 祐 士 ③①
消 化 器 内 科	高 津 典 孝 ※	安 川 重 義 ②⑨	天 野 良 祐 ③②
脳 神 経 内 科	津 川 潤	津 川 潤	津 川 潤
小 児 科	井 上 貴 仁 ①⑤	笹 岡 大 記 ③⑧	塩 手 仁 也 ③⑥
外 科	宮 坂 義 浩	柴 田 亮 輔 ②⑥	坂 本 良 平
呼 吸 器 ・ 乳 腺 外 科	吉 田 康 浩 ②④	上 原 美 由 紀	吉 田 康 浩 ②④
整 形 外 科	野 村 智 洋 ②⑦	小 阪 英 智 ③④	蓑 川 創 ③⑩
脳 神 経 外 科	井 上 律 郎 ②⑨	新 居 浩 平 ②④	坂 本 王 哉 ②⑧
泌 尿 器 科	平 浩 志 ①⑤	平 浩 志 ①⑤	宮 島 茂 郎 ②②
眼 科	海 津 嘉 弘	海 津 嘉 弘	松 本 拓 ③②
耳 鼻 い ん こ う 科	佐 藤 晋 ③⑩	佐 藤 晋 ③⑩	速 水 菜 帆 ③⑨
放 射 線 科	山 本 良 太 郎 ②②		
救 急 科	松 尾 邦 浩 ⑧		
麻 酔 科	若 崎 る み 枝		
病 理 部	原 岡 誠 司		

※印は循環器内科、内分泌・糖尿病内科、呼吸器内科、消化器内科の代表医長

教育職員人事（講師以上）

（○内の数字は福大医学部卒業回）〔令和 4.4.2 ～令和 4.10.1〕

区分	所 属	資 格	氏 名	発令日	摘 要
退職	産 婦 人 科	講 師	深 川 怜 史 ^㉔	4. 5. 31	
	脳 神 経 外 科	准 教 授	野 中 将 ^㉕	4. 9. 30	
	筑 紫 消 化 器 内 科	講 師	大 津 健 聖 ^㉖	4. 9. 30	
採用	脳 神 経 外 科 学	講 師	竹 本 光一郎 ^㉗	4.10. 1	
昇 格	心 臓 血 管 外 科 学	准 教 授	桑 原 豪 ^㉘	4.10. 1	
	精 神 医 学	准 教 授	堀 輝	4.10. 1	
	筑 紫 内 分 泌 ・ 糖 尿 病 内 科	准 教 授	阿 部 一 朗	4.10. 1	
	歯 科 口 腔 外 科 学	講 師	吉 野 綾	4.10. 1	
	病 理 部	講 師	古 賀 佳 織 ^㉙	4.10. 1	
	臨 床 検 査 部	講 師	小 柳 尚 子 ^㉚	4.10. 1	
	内 分 泌 ・ 糖 尿 病 内 科	講 師	横 溝 久	4.10. 1	
	法 医 学	講 師（４－７）	ウォーターズブライアン	4.10. 1	
	法 医 学	講 師（４－７）	高 山 み お	4.10. 1	
	微 生 物 ・ 免 疫 学	講 師（４－７）	尾 鶴 亮	4.10. 1	
	微 生 物 ・ 免 疫 学	講 師（４－７）	吉 村 芳 修 ^㉛	4.10. 1	
	眼 科 学	講 師（４－７）	川 村 朋 子	4.10. 1	
	眼 科 学	講 師（４－７）	原 田 一 宏	4.10. 1	
	消 化 器 内 科	講 師（４－７）	高 田 和 英 ^㉜	4.10. 1	
	心 臓 血 管 外 科	講 師（４－７）	古 井 雅 人	4.10. 1	
	筑 紫 消 化 器 内 科	講 師（４－７）	小 野 陽一郎 ^㉝	4.10. 1	
	筑 紫 外 科	講 師（４－７）	薦 野 晃 ^㉞	4.10. 1	

編 集 後 記

烏帽子会会員の皆様に2022年秋号の烏帽子会報をお届けします。7月に第41回烏帽子会総会が無事にハイブリッド形式で開催されました。研究奨励賞の受賞、FU-OMSAの受賞に加え、今年から小玉会長の発案で学生医学教育貢献者賞が設けられました。医師国家試験の高い合格率を維持するには大学／医学部の教員のみならず事務方の支援も欠かせず、この度、受賞者の中に教員以外に医学部事務課の方が含まれたことは画期的なことでした。ひきつづき、教育には情熱をもって臨むことが求められています。

With コロナの生活様式が定着しつつある中、各種学会・学術面の活動は対面を含め制限が解除されかつての活気を取り戻しつつあります。しかし、学生の課外活動（九山／西医体）、地域医療実習、医学祭、謝恩会、スポーツ等のレクリエーションはまだ制限が続く状態です。コロナの感染拡大（波）が来るたびに、職員の感染者やクラスター発生が増え、病床数を一時的に減らすも厳しい診療体制を幾度と経験します。烏帽子会会員の皆様におかれましては、コロナ禍の診療体制でご苦労されておられることと思います。福岡大学病院新本館が竣工する2023年12月にはコロナも終息し、かつての日常が取り戻せることを切に願います。烏帽子会会員の皆様のご活躍、ご健勝を心よりお祈り申し上げます。

広報担当理事 永光 信一郎（13回生）



「福岡大学病院新本館(仮称)」 2023年12月竣工予定



令和4年 5月10日撮影



令和4年 6月10日撮影



令和4年 7月11日撮影



令和4年 8月10日撮影



令和4年 9月12日撮影



令和4年 10月11日撮影



医学部新館 5階から撮影



告知

第42回福岡大学医学部同窓会 烏帽子会総会

開催日 2023年7月1日(土)
5:00PM~8:00PM

会場 ソラリア西鉄ホテルにて

烏帽子会会報第73号

発行日 令和4年12月1日
発行人 小玉 正太
編集人 小玉 正太

発行所 〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1
福岡大学医学部同窓会
電話:092-865-6353(直通)
092-801-1011(代表) 内線[3032]
FAX:092-865-9484
E-mail: maileboshi@gmail.com

印刷所 ローターリー印刷株式会社
福岡市中央区港2-8-9
電話:092-711-7741
FAX:092-711-7901